

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加をめざし、一貫性・系統性のある「秦野らしい」教育課程の整備とそのしくみの確立、及び専門性維持向上のための取組を進める。	①小中高の一貫性・系統性の視点から「秦野らしい」教育課程の整備を行う。 ②個別教育計画を活用した授業づくり・授業改善システムを構築する。	①一貫性・系統性の視点から各部門課程の教育目標や個別教育計画をはじめとする各種指導計画等の組織的見直しを行う。 ②個別教育計画を踏まえた授業評価を行う流れを確立させる。	①校内組織が連携協働し、一貫性・系統性の視点から教育目標や指導計画等の見直しができたか。 ②個別教育計画を活用し、授業を振り返ることで、児童生徒の学習の定着が図れたか。					
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	・児童生徒の個性を尊重し、多様な教育的ニーズに配慮しながら、「自己実現」と「共生」をめざした指導・支援を組織的に行う。	①児童生徒の多様な教育的ニーズに対し、客観性・根拠や多角的視点に基づいた指導支援を行う。 ②人材活用と学び合いを進め、専門性の維持向上を図る。	①アセスメントツール等の活用や専門職等との連携を促進し、的確な実態把握に基づいた目標設定や日々の指導を行う。 ②人材バンクの作成等、校内の人材を活用した教員間の学び合いのしくみを整備する。	①客観的かつ多様な視点での実態把握に基づいた指導目標や手だてを、目標設定や日々の指導に活かされたか。 ②校内の人材活用を恒常的に行い、よりよい指導につながったか。					
3	進路指導・支援	・児童生徒一人ひとりの「夢の実現」や主体的な進路選択に向けて、障害特性や発達段階に応じた指導・支援を、保護者や関係機関との連携の下で進める。	①児童生徒の卒後を見据え、児童生徒が自信や意欲、見通しを持てるような指導・支援を行う。 ②スポーツや文化活動等への取組をとおして、児童生徒の余暇活動の充実を図る。	①キャリア・パスポートや個別教育計画を活用し、本人・保護者の意向に沿った目標設定やフィードバックをしていく。 ②様々なスポーツへの関わりや文化活動等を経験する機会を設ける。	①本人・保護者の意向を聴き取り、意向を踏まえた目標設定やフィードバックを行い、児童生徒の自信や意欲につながられたか。 ②スポーツや文化活動等に対する児童生徒の興味・関心が高められたか。					
4	地域等との協働	・他者を尊重し、多様性を認め合う共生社会の実現に向けて、支援教育及びインクルーシブ教育を「地域とともに」推進する。	①地域の学校との交流及び共同学習を進め、定着化を図る。 ②病弱教育部門の移行・復学支援システムを機能させ、定着化を図る。	①地域の学校との交流及び共同学習を通常の学習場面として定着させる。 ②システムに即して転出入事務を行うとともに卒後・復学後を見据えた学びの充実を図る。	①交流及び共同学習を指導計画に位置付けることができたか。 ②システムに即して転出入事務を行うとともに卒後・復学後を見据えた学びの充実が図れたか。					

5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、地域、関係機関等から「信頼される学校」をめざし、児童生徒が安全に安心して過ごせる教育環境を整備する。</li> </ul>	<p>①児童生徒のいのちと人権を守り、安全・安心で居心地のよい学校生活を送れるようにする。</p> <p>②教員が指導に精力を傾けられるよう業務改善を進め、長時間勤務を是正する。</p>	<p>①「児童生徒への丁寧な関わりのスタンダード」、各種マニュアル・訓練等の継続的な確認と見直しを行う。</p> <p>②地域人材との協働、定例会議での業務改善策の検討、職員一人ひとりの業務マネジメント等を進める。</p>	<p>①児童生徒情報の共有やマニュアル・訓練等の見直しにより、事故の未然防止や安心な学校生活につながられたか。</p> <p>②校内全部署、全職員が当事者として業務改善に関わり、長時間勤務が是正できたか。</p>					
---	--------------	--	---	---	--	--	--	--	--	--